企業名：　蝶理株式会社
レポート名：　Tsumugu レポート　2021

1.　この会社が目指す将来の姿が理解できるか

理解できると考える。

蝶理は、1861 年創始以来 160 年にもわたり経営を続けている歴史ある株式会社である。創業開始当初は生糸問屋を本業としていたが、1926 年には人絹市場へと拡大し、戦後は繊維以外にも化学品や各機械取扱など様々な事業に取り組んでいた。しかし、1992 年にファイナンスや不動産の面で多額の損失を受けて以降、2000 年台までは生活関連産業分野の事業を見直し、コアビジネスである繊維事業への注力を図ることで、抜本的な構造改革を行った。これらの取り組みが功を奏し、2019 年度には 4 期連続の最高益更新を記録するなどの飛躍を遂げた。現在では地理やナイジェリアなどの社会貢献事業にも取り組んでいる。

このような歴史から、私は常に時代とともにあゆみ、社会のニーズに答えながら積極的に事業展開をする蝶理の姿が窺い知ることができるように感じた。また、2022 年度から開始した中期経営計画では、「経常利益 100 億円台常態化への基盤固め」が進められている。2020 年からコロナウイルスが世界を取り巻く中、事業環境が激しく変化し経営状況が不安定化したものの、経常利益は目標である 100 億円に近い 97 億円となっていることから、コロナ禍中でも着実に目標に近い経営ができていると考えることができる。

統合報告書には、蝶理の目指す将来像として、アフターコロナの環境が新しく常態化する中で生き抜くために、「高機能・高専門性を基盤として、グローバルに進化・変化し続ける企業集団」を実現し、更なる企業価値の向上を目指すとの明確な記述があった。また、上記で述べたように、蝶理が今に至るまで 160 年にわたる歴史から読み取れるような独自の臨機応変な対応力や目標達成率などからも、蝶理が目指す将来の姿が十分に理解できるのではないかと私は考える。

2.　この会社の競争優位性が理解できるか

理解できると考える。

蝶理は、自社の強みの中核として、「グローバルサプライチェーン構築力」を挙げている。そのグローバルサプライチェーンを築くための要素として、統合報告書では「独自のグローバルネットワーク」、「人材」、「歴史」の 3 つをあげ、それぞれ詳しく説明されている。説明は、どの要素も蝶理にとって不可欠な強みなっていることが納得できるものであり、蝶理の競争優位性についても統合報告書から十分に理解できる。

3.　その競争優位性が持続するかどうか理解できるか

理解できると考える。

その一要因として、蝶理が長年に渡って中国との関係を築いてきたことが挙げられる。生産拠点としてだけでなく、中国を三国間取引の戦略拠点という位置づけで事業の強化・拡大を加速しているという面からは、現在そして今後も成長を遂げる中国への臨機応変な対応ができていると考えられるからだ。

また、中国以外にも国外拠点は全部で３５箇所あり、統合報告書のグラフからは 1970 年台から1990年台前半までは海外へ拠点を展開するごとに売り上げを大幅に伸ばしていることが読み取れる。また、全盛期を迎えた 90 年台前半以降売上高は衰退しているものの、今まで国内売上が主体だった売り上げが、海外売り上げが主体になりつつあり、国外市場に力を入れているということが明瞭に読み取れる。国内問わず拠点があることは、安定した売り上げが期待できると考える。

また、コロナ禍においては、出張にも行けない中で、サプライチェーンを切らすことなく調達を続けたこと、特に不足していたマスクや防護服、衛生材などの物資を組織の総合力を活かし、迅速に調達・納品できたことが統合報告書で強調されていた。ここからも、今後も激変する社会・経済環境への適応や、それに応じた新しいビジネスチャンスを捉えていけると予想でき、蝶理は競争優位性を持続できると理解できる。

4. 企業のステークホルダーである「将来世代」として、この会社に就職して自身の人的資本の価値向上(スキル向上)を達成できると思うか

私は蝶理では自分自身の人的資本のスキル向上を達成できると思う。なぜなら、人材についても、蝶理では最も重要経営資源であると解しているとレポートから読み取れるからである。

例えば、統合報告書にあるように、「蝶理のサスティナビリティ」の一つとして、「人材」が取り上げられている。そこでは、「人を活かし、育て、人と人を繋ぐことで成長し、次世代へ繋ぐことができる企業を目指します。」と記述されていて、変化にすばやく対応し、何事にも好奇心や広い視野を持って行動し、将来の蝶理グループを担える人物となるよう、人材育成に取り組んでいるという。その例として、新入社員の研修制度や役職階層ごとに設けられる研修などのキャリア形成支援、海外研修、オンラインでの研修の充実などがある。

また、研修制度の充実に加えて個人的に特に魅力的に感じたのは、会社指定の資格の受講料や受験費の補助を行い社員の自己啓発の手助けをしているということである。資格の取得などは目に見えて自分のスキルアップがわかるため、働く上でのモチベーションになるに違いない。また、長年に渡って海外に拠点を設置していること、そしてこれからも海外に手を広げていく可能性があることから、自分の語学能力の向上にもつながるように思える。以上の理由により、蝶理において人的資本の価値向上が期待できると考えた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

十分に蝶理の企業価値が読み取れる報告書に思えたため、改善余地は特に思いつかないが、強いていうならば、文字が多いため強調したい要素がわかりにくいように思った。